

テレビドラマがあり、歌謡曲もある。

性、調べを前面に出す試み。

いにしえの氷の海がすり落ちる地球の歯茎が傷口に見ゆ

石田郁男

矢澤春美

「地球の歯茎」という比喩の意外性に感心した。モンブランをめぐるアルプスの連峰に取材しているらしい。ただ、「地球の歯茎」はいいが、「傷口」は言い過ぎか、と思う。

指を吸うひとり遊びは楽しからむごらんまぶしい青
は空だよ

鈴木香代子

「指を吸うひとり遊びは楽しからむ」が魅力的である。

我を忘れるようにして指しやぶりに熱中しているさまが目に浮かぶ。登場人物は、幼児でもいいと思うが、乳児を思い浮かべるのがよさそうだ。

街路樹に区切られながら走つたら映画のコマに入つてしまふ

武藤義哉

フィルム映画のコマ送りのイメージである。むかし家庭にあつた八ミリや16ミリの映写機が思い出されて、レトロな世界につれていくてくれる。

ただ、日常語的な口語が前面に出すぎている点が私は気になる。定型詩を読む楽しみである言葉の緊迫感とか音楽性とかが希薄な気がするからである。

いろはにはいろいろさしそへて咲き盛る桜を走る界雷面。^{かけ}下句、満開の桜の木を突然の稻妻が一気に照らした場面。上句は、いろは歌をふまえ、意味を希薄にして音楽の光

松本ちゑこ

十余人二日がかりで田植えせり老いが楽しむ八畝の水田

「十数人」ではなく、「十二人」とか「十五人」とか、きちつとした数詞がよかつた。

画像の如く立ちいる警察官の半径二メートルには入らず

桑野智章

制服の存在感をやや戯画的に表現して特色ある一首にあげた。人通りの多い都会の舗道を思い浮かべるのがいいだろう。人の流れが、なんとなく警察官をさけるようになっているのだ。なお、第三句「警察官の」の「の」はいらなかつた。あるいは、「画像の如く立ちおり」と二句切れにしてもよかつた。

ひらひらと君は帰りぬ消し護謨を落として消せぬ答案のように

大野道夫

初句の「ひらひらと」は、「答案」とひびきあつてゐるのだろう。意に反して「君」は帰つて行つてしまつたのである。

自分のドジで取り返しがつかなくなつた決定的な場面を、深刻にならないように、あくまでも軽くかるーく表現したところが今ふう。